

令和7年度 第1回 全国理事会 記録

<会長挨拶>

世田谷区立駒沢小学校 校長 鈴木 隆弘

本校に赴任し、初めて「きこえとことばの教室」に関わる機会を得ました。昨今、個別最適化の学びが重要視されていますが、この教室は、元々個別最適化された学習を実践してきた場であると実感しております。先生方の日々のご努力には、心から敬意を表します。今年度の東京大会の開催にあたり、皆様のお力添えをいただければ幸いです。どうぞよろしく願いいたします。



<来賓挨拶>

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官 村上 学 様

全難言協の活動は他に類を見ない素晴らしい取り組みであり、敬意を表します。今年度、通級する児童の数が過去最多となりました。きこえとことばの教室の専門性向上への期待がますます高まっています。難聴・言語障害は外部からは分かりにくく、その原因も多岐に渡ります。そのため、担当教員の専門性が非常に重要となります。本協議会は、教員同士が学び合い、保護者や専門機関との連携を深めながら発展してきました。本日が実り多い会となり、さらなる発展につながることを祈念しております。

東京都教育庁都立学校教育部特別支援教育課 主任指導主事 瀧渦 孝治 様

全難言協が創立して以来、多大なる貢献をされていることに敬意を表します。児童が自分の住む地域で必要な教育を受けられるよう環境が整えられてきたことは、先生方の尽力の賜物です。本研究会は、研修会の開催、指導資料の作成、情報共有などを通じ、全国の難聴・言語障害教育を支える重要な役割を担っていらっしゃいます。本年度の東京大会におきましても、充実した協議や研究発表が行われ、さらに難聴言語教育が発展することを祈念しております。

世田谷区教育委員会事務局支援教育課 課長 松見 径 様

難聴・言語障害教育の振興に対し、心より敬意を表します。世田谷区にはきこえとことばの教室が7校14学級設置されております。本日は、皆様から多くを学び、得た知見を世田谷区の教育に活かしていきたいと考えております。今後も全難言協が実り多い会となるよう、引き続き協力させていただきます。

NPO法人全国ことばを育む会 理事長 今岡 克己 様

私は、保護司として日々、ギャンブル依存症やアルコール依存症等に悩む若者たちの支援を行っております。子供の健やかな成長を願いながらも、子供の将来に不安を抱える保護者の姿を見るたびに、その苦悩に胸を痛めています。平素より、皆様の支援のおかげで

多くの子供たちが適切な教育を受ける機会を得ていることに、この場をお借りして心から感謝申し上げます。

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所研究企画部 主任研究員 谷戸 諒太 様

幼稚園での勤務を経て研究所に移り、早くも3年が経ちました。これまでの歩みを振り返る中で、「言語こそが研究の土台である」と強く実感しております。先輩方から受け継いできた知識や経験を大切にしながら、それを研究という形に落とし込み、より実践的な成果へとつなげていきたいと考えています。皆様とのつながりを大切にしながら、今後も学びを深めていきたいと思っております。1年間、どうぞよろしくお願いいたします。

<議事>

- 令和6年度事業報告 承認
- 令和6年度決算報告 承認
- 令和6年度会計監査報告 承認
- 新役員選出・承認 承認
- 令和7年度事業計画案 承認
- 令和7年度予算案 承認



○令和7年度第54回全国大会東京大会についての概要説明・大会宣言案

大会実行委員長 河野 芳浩 様

昨年度の沖縄大会は、九州・沖縄地区の皆様による温かいホスピタリティのもと、心に残る素晴らしい大会となりました。参加者の皆様が熱心に学ばれる姿を拝見し、改めて大会の意義を実感いたしました。東京大会のシンボルマークである「ひまわり」は、一粒の種から大きく美しい花を咲かせます。皆様がそれぞれの地域へ学びの種を持ち帰り、各地で花が咲くことを心より願っております。ご参加よろしくお願いいたします。

東京大会は、7月28日～30日の3日間、国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催します。初日は、都難言協の基礎研究会と共催し、基礎講座を開催します。2日目は、午前中に記念行事、記念講演を行います。記念講演の講師は、東北福祉大学の 大西孝志先生にお願いしております。午後は、パネルディスカッションと全難言協の総会を開催します。パネルディスカッションは、吃音と難聴が開催されます。最終日は、難聴、構音、吃音、言語発達、読み書き、ICT、連携の7つの分科会を予定しております。

○令和8年度第55回全国大会近畿大会についての挨拶・現状報告

大会実行委員長 鍵田 幸男 様

全国大会は、最新の首都・東京から、最古の首都・奈良に引き継がれます。会場は、JR奈良駅から近く大変便利です。ご予約がつけば、古都奈良の観光もされてみてください。皆様のお越しを大仏様もお待ちしていると思っております。ご参加よろしくお願いいたします。

なお、全国大会に先立ちまして、今年度大阪市立北中道小学校にて近畿ブロック大会を実施します。そちらのご参加もお待ちしております。

○令和9年度以降の全国大会について

青森県理事 山下 征子 様

以前、東北ブロックの担当として参加させていただいた際、先生方の熱意とつながりの大切さを強く感じました。こうした貴重な会に参加できることを改めてありがたく思っております。青森大会は、6月以降に組織編成を進める予定です。開催地は青森市です。開催日は、令和9年7月29日木曜日から30日金曜日を候補にしております。どうぞよろしくお願い致します。

<協議>

○小川再治研究協賛会について 事務局長より

小川再治先生は、平成4年度まで東京学芸大学で教鞭をとられ、ご勇退後に、難聴・言語障害教育の振興、発展及び後進の育成に役立てるため、小川再治研究協賛会を設立されました。全日本聾教育研究会と、全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会が協賛金をお預かりしています。奥様である会長の小川昭子先生は、ご高齢のために本日ご欠席ですが、設立の経緯や、毎年大変貴重なお金をお預かりしているということを各都道府県の研究会でも周知してください。

○出井啓文先生の訃報について 事務局長より

本年1月6日、出井啓文先生がご逝去されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。先生は、栃木県の中学校特殊学級で教鞭を執られる中で難聴・言語障害教育に関心を持たれ、その後、東京学芸大学の難聴・言語障害担当教員臨時養成課程で学ばれました。その後、「日本言語障害児教育研究会」や千葉県の「言語障害児を持つ親の会」等に参加され、ご活躍されました。その後、東京都で研究会が発足したことを契機に、全難言協の発足に尽力され、初代の事務局長として今日の全難言協の基礎を築かれました。先生のような偉大な先輩方の歩みを心に刻みながら、今後も全難言協の運営に励んでいきたいと思っております。

○アレーズ秋桜(コスモス)について

アレーズ秋桜は、聴覚障害児のための入所施設です。ご家庭の事情により自宅からの通学が難しいお子様を受け入れ、日常生活をサポートしています。全国からの受け入れを行っておりますので、ぜひ広く周知いただきますようお願いいたします。

<国の特別支援教育施策について>

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官 村上 学 様

近年、日本の義務教育段階における児童生徒数は全体で約2割減少しています。しかし、特別支援教育を受ける児童生徒数は増加を続け、この20年間で3.8倍になっています。その中でも、特別支援学級は4.8倍、通級による指導は5.4倍に増加しています。

特別支援学級の児童生徒数については、言語が令和2年から減少し、通級へと移行している傾向があります。また、難聴学級も令和5年度から減少傾向がみられます。しかし、通級による指導を受ける児童生徒数では、難聴は減少していない一方で、言語は増加しています。現在、言語障害と難聴を合わせると、通級による指導を受ける児童生徒の4分の1を占めています。

平成20年時点では、難聴児童の6割が聾学校で学んでいましたが、現在ではその割合が約半数となっています。障害の程度に応じた学習環境の変化が進んでいるものの、難聴児童の約4割が支援を受けずに通常学級で学んでいる現状もあります。こうした児童への適切なサポートが、今後の重要な課題です。

昨年12月より、次期学習指導要領の改訂に向けた動きが始まりました。現在、少子化が加速し、デジタル技術の躍進により先行きが予測困難な状況です。その中で、子供たちが自ら学び続け、自分の未来を切り開く力を育むことが求められています。

特別支援教育については、特別支援学級や通級に関わる特別な教育課程の見直しが求められています。地域によって教育課程の取り組みに差があり、一部では自立活動が十分に実施されていない例も報告されています。国語と算数のみを学び、その他の科目は通常学級で行うなど、機械的な教育課程が組まれている地域があることも課題です。

有識者会議では、専門性の向上が重要なテーマとして議論されています。特別支援教育を担当する教員の経験が浅いケースも多く、地域ごとに専門性を確保するための施策が求められています。学校全体としての専門性維持や、担当教員が異動しても継続できる教育体制の構築が必要です。

教育の実践には、単なる「ハウツー」だけでなく、子供をどのように支援するかという哲学的な視点が不可欠です。吉田麻衣先生の「全体発達をみていくことが重要である」という考え方を引き継ぎ、各地域で子供との関わり方を深く考えていくことが求められます。

<独立行政法人国立特別支援教育総合研究所より>

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所研究企画部 主任研究員 谷戸 諒太 様

今年度は、重点課題研究・障害種別特定研究の最終年度にあたります。研究報告にぜひご期待ください。今年度も、特別支援教育専門研修を実施いたします。加えて、経験年数の浅い先生方向けに「特別支援教育リーフ」を作成しました。こちらはHPからダウンロード可能ですので、広く周知いただけますようお願いいたします。現在、言語班では、「ことばの教室 ことはじめ」の内容を見直し、より充実した研修へと発展させる準備を進めています。

<NPO法人全国ことばを育む会より>

NPO法人全国ことばを育む会 理事長 今岡 克己 様

近年、課題を抱える子供たちの親御さん同士のつながりが希薄になってきている現状を懸念し、改善に向けた取り組みを進めています。今回開催される岩手大会・盛岡大会では、4つの分科会のうちのひとつとして「親の会の再構築をどう進めるか」をテーマに議論を行います。再構築が難しい場合には、別の方法で悩める親御さんをどのように支援できるかについても検討します。経験者の親が周囲にいて、初めて課題に直面する親にとって大きな支えになります。その上で、先生方の教育の力が加わることで、より良い育ちの環境が整うことでしょう。そのような支援の仕組みを築いていくことを心から願っています。

現在、島根大学との共同研究として、悩める親御さんが気軽に集えるチャットボットを開発しています。このチャットボットは、単にアドバイスを提供するだけでなく、親の会につながるシステムを組み込むことで、地域のつながりを再び呼び起こすためのツールとなることを目指しています。

本年、NPO法人全国ことばを育む会創立60周年記念 第30回全国大会岩手大会と岩手県ことばを育む親の会結成60周年記念 第52回盛岡大会を共催します。会期は令和7年8月9日と10日。会場は、いわて県民情報交流センター アイーナです。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

<各都道府県より報告・抜粋>

○取り組みについて

- ・ブロックに分かれて、研究会・研修会を行っている。
- ・夏季休業中の研修を行っている。
- ・自主研修を行っている。
- ・遠方の教員とはteamsなどを活用して研修している。
- ・聾学校教員が研修を開いている。
- ・分野が偏らないように研修を企画している。
- ・教材を紹介し合う研修を実施している。
- ・経験の長い先生の元集って自主研修をしている。
- ・県内で時間を決めて、meetで研修している。
- ・サテライト方式の認知度は高まってきたが、教員一人が担う児童数が増え、担当者が増えない現状がある。
- ・児童10人に対して1人の教員という状態を維持したい。
- ・3年目以下の教員に向けて研修会を開いている。
- ・ブロックに分かれて研究を進めている。輪番で研究発表を行っている。
- ・中学校の言語通級について都の教育委員会が設置を認めたが、設置は市区町村の教育委員会に任せられており、設置には至っていない。
- ・実践収録を作成、配布している。
- ・県の組織の会則が言語に限られていたことから、LD、ADHDも含めるように改正する動きがある。
- ・巡回指導が増えている。市や小中を跨いで巡回している地域もある。

○課題

- ・経験の浅い先生、臨時任用の先生が多い。
- ・離島の先生方の研修が難しい。
- ・県内の移動に時間がかかるため、集えない。
- ・必要な児童が出たら開級し、卒業したら閉級してしまう。
- ・教員の入れ替わりが多いので、専門性の継承が難しい。
- ・教育委員会からの方針が降りてこなくなっている。
- ・研究会会員の人数が増えてきて、施設見学などが難しくなった。
- ・県内の研究会は存続しているが、実際のところ参加しているのは1校のみで組織として成り立っていない。もう一度立て直したい。
- ・研究会を運営していく資金が足りない。
- ・研究会の会員が減ってきている。他府県の方と関わっていきたい。
- ・大会事務局の運営が難しい。
- ・How toを求める先生が多いが、実際はそれだけでは難しい。

- ・組織内でも意識の違いがあり、運営が難しい。
- ・保護者の送迎が難しい。巡回方式も認めてほしいと思っている。
- ・難聴通級指導学級が増えているが、専門性をもった教員がいない。
- ・研修会への参加率が50%前後である。
- ・会費がなくなったため、今後の運営が課題。自分たちが講師になり、学び合いの研修を増やしている。
- ・発達障害を併せ有する児童が増えている。情緒障害学級との連携が課題。
- ・固定級を通級に置き換えていく動きがある。設置校が約半数に減る予定。組織の改変が課題。
- ・難聴学級が県内2校に減ってきている。

○その他

- ・第53回東海四県言語・聴覚・発達障害児教育研究大会、岐阜大会が本年8月18日から24日までオンデマンドで開催されます。ぜひ、ご参加ください。
- ・明治図書出版の「LD・ADHD」に、静岡の通級教室が載っていますので、ぜひご覧ください。

以上